



たじめ No.83 福祉だより

発行・編集

多治米学区
福祉を高める会・ボランティアの会
まちづくり推進委員会
事務局 953-7342

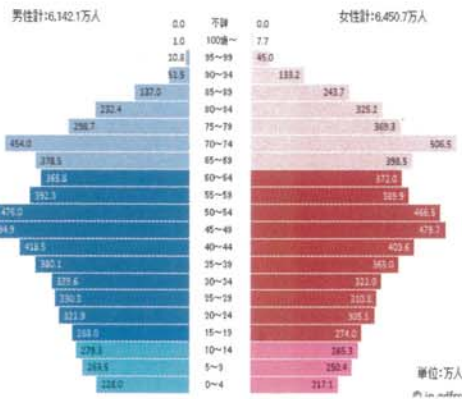
2023年2月20日発行

他人ごと？ それとも？

昨年十二月六日「ささえあいサミット2022」に参加させて頂きました。

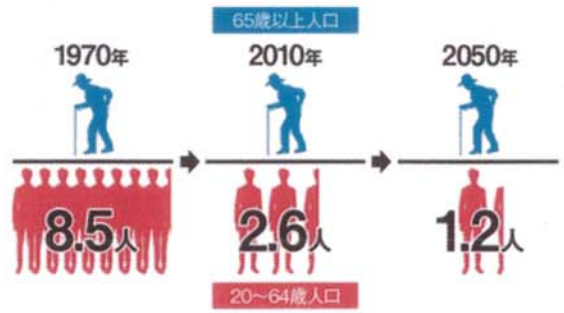
ピラミッド型→壺型へ

随分以前から問題視されている超高齢化社会の波は既に到来している。人口動態を表す人口ピラミッドはもはやピラミッド型ではなく壺型となつてしまった。



高齢者の約7割の方は七〇歳くらいまで働きたいと言われているが、この七〇歳までを働く世代としても高齢者一人を支える現役世代の人数は、今後ますます減少する事が予想され、早急な対応が必要だ。

高齢者1人を支える現役世代の人数



総務省「国勢調査」、社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(2012年1月推計)」、出生中位・死亡中位、厚生労働省「人口動態統計」

それでは、私達の住む多治米学区では、どうなのか？ ニーズの把握、特性・地域資源の活用等、地域にあった取り組みが必要とされている。
地域が重要な理由
統計では、高齢者の約75%は、介護状態でも自宅で生活をする事を望んでいる。要するに、体が不自由になつても施設ではなく、住み慣れた自宅、地域で穏やかな日々を送りたいと願う人が大半だという訳だ。
核家族化が進み、家庭の単位が小さくなり、今後、日本全国で同時多発的に起こるであろう、様々な地域課題に、行政が細かくサポート出来るだろうか？

答えはNOだろう。

故に、この問題に取り組む事は、この地域に住む私たち自身が、今後どのような老後を迎えるのか？という意味においても大変重要な課題と言える。

また高齢者だけが住む地域でなく、多世代が豊かに暮らすためには、どのような取組が必要なのか？その様な観点での課題検討も必須だろう。

お互いさまミーティング

「自治会町内会は、行政の出先機関ではない」と言う声も多く聞かれる昨今ではあるが、これらの問題に取り組む事は、まさに自分事として考えるべきだろう。

もうすでに、多くの地域で「お互いさまミーティング」と称し様々な取組がなされている様だが、私たちの住む地域には、どの様な課題があり、どの様な取組が必要なのか、またどの様な地域資源があり、どう活用できるのか？その一歩を踏み出す為に是非、地域の皆様の知恵、お力をお借りしなければならぬと痛感している。

よろしく
お願いします



ボランティア 募集中!

一緒にボランティア
活動しませんか？

連絡先：事務局

953-7342



多治米サロン
フラワー
アレンジメント
十二月二十四日

各地域の サロン活動



カフェ寄ってきんさい多西



角内カフェ



2022/11/20



2022



五本松
松カフェ



千代田サロン

千代田サロン 2022.7.8 千代田会館



沖西かふえ三軒屋
100歳体操

